



担当

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付
高齢社会対策担当

参事官
政策調査員

本多 則恵
小島 武彦
高相 泰忠

電話： 03 - 3581 - 9268 (直通)

内閣府発表
平成22年4月2日

「高齢者の日常生活に関する意識調査」結果[要約]

調査対象 : 全国の60歳以上の男女5,000人
有効回答数(率) : 3,501人(70.0%)
本調査は、平成6年より5年に1回実施しており、今回で4回目

<ポイント>

1. 将来の自分の日常生活全般について不安を感じている人が増えている

・「将来の自分の日常生活全般について不安を感じる」*と回答した人の割合は71.9%で、過去の調査と比較すると増加傾向にある。

平成21年調査	71.9%
平成16年調査	67.9%
平成11年調査	63.6%

*「とても不安を感じる」、「多少は不安を感じる」の合計

2. 高齢者のおしゃれへの関心度が高まっている

・おしゃれへの関心度について、「おしゃれをしたい」と回答した人の割合は60.2%で、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて60%を超え、特に女性は7割が「おしゃれをしたい」と考えている。

平成21年調査	60.2% (男性：47.9%、女性：70.3%)
平成16年調査	53.4% (男性：39.1%、女性：65.8%)
平成11年調査	52.9% (男性：38.0%、女性：65.6%)

3. 日頃の食生活において、単身世帯及び経済的にゆとりが少ない人ほど欠食している

・日頃の食生活における食事の回数について、「毎日3食を食べている」と回答した人の割合は90.7%、一方「欠食することがある」*と回答した人の割合は9.3%であった。

・「単身世帯」の19.6%、「家計が苦しく非常に心配である」と回答した人の18.8%が「欠食することがある」と回答。

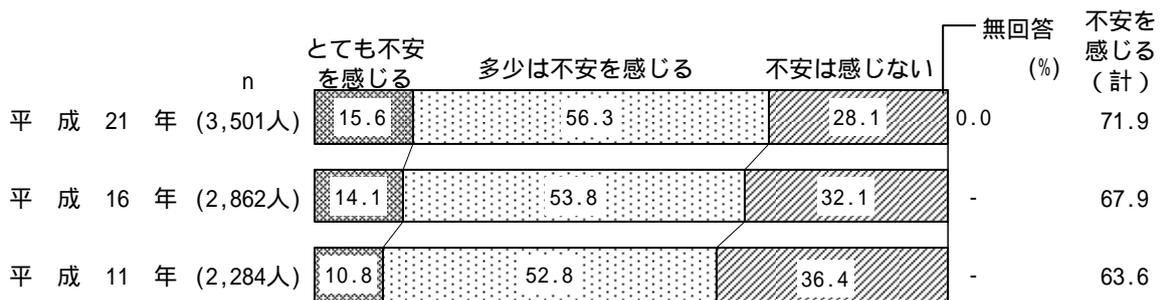
*「週に1~2回欠食することがある」、「週に3~6回欠食することがある」、「週に7回以上欠食することがある」の合計

4. 「一般的に高齢者とは何歳以上だと思うか」について、「70歳以上」と考えている人の割合は42.3%、「支えられるべき高齢者」については「80歳以上」と考えている人の割合は32.4%で最も多い。

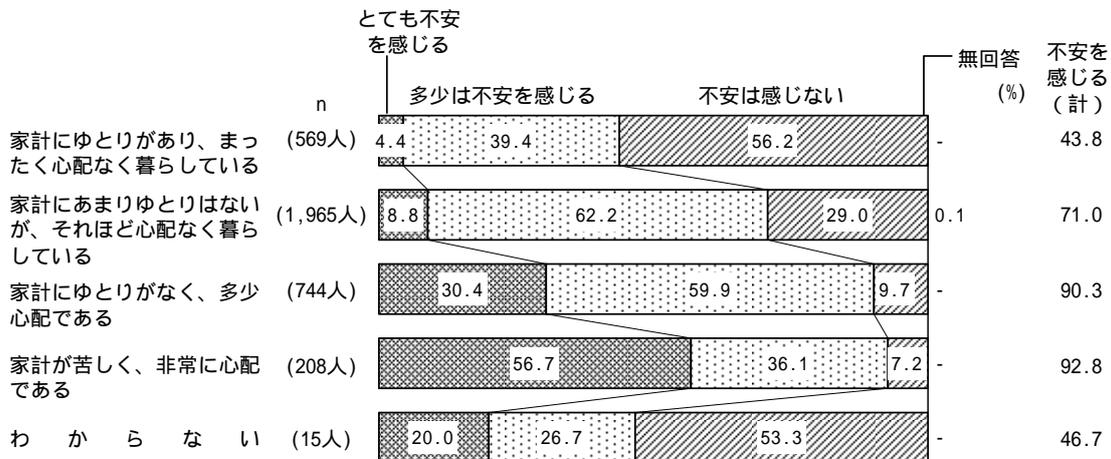
ポイント 1 将来の自分の日常生活全般について不安を感じている人が増えている。

- ・ 「将来の自分の日常生活全般について不安を感じる」(「とても不安を感じる」、「多少は不安を感じる」の計)と回答した人は71.9%で、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて70%を超えた。
- ・ 経済的状況別にみると、「家計にゆとりがなく、多少心配である」人の90.3%、「家計が苦しく、非常に心配である」人の92.8%が将来の日常生活に不安を感じている。
- ・ 健康状態別にみると、「良くない」人の85.5%が将来の日常生活に不安を感じている。
- ・ 不安を感じている点について、過去の調査と比較すると「自分や配偶者の健康や病気のこと」、「生活のための収入のこと」、「子や孫の将来のこと」についての不安が増えている。

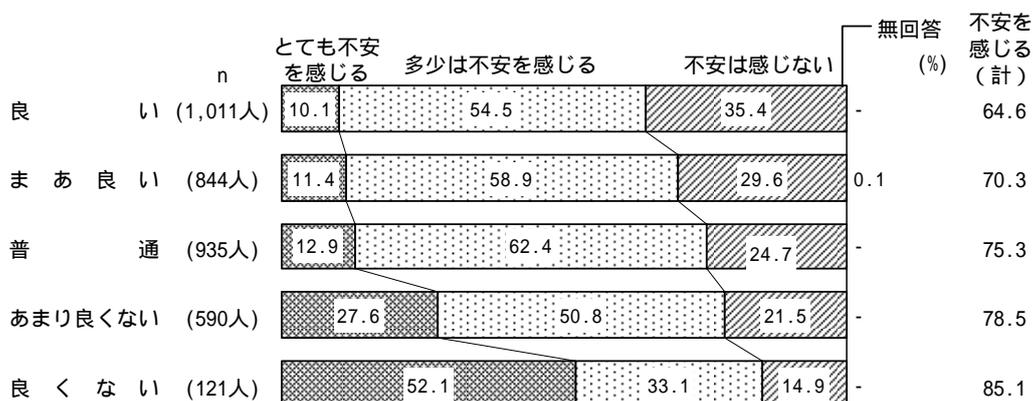
Q7「あなたは、将来の自分の日常生活全般について不安を感じますか。」



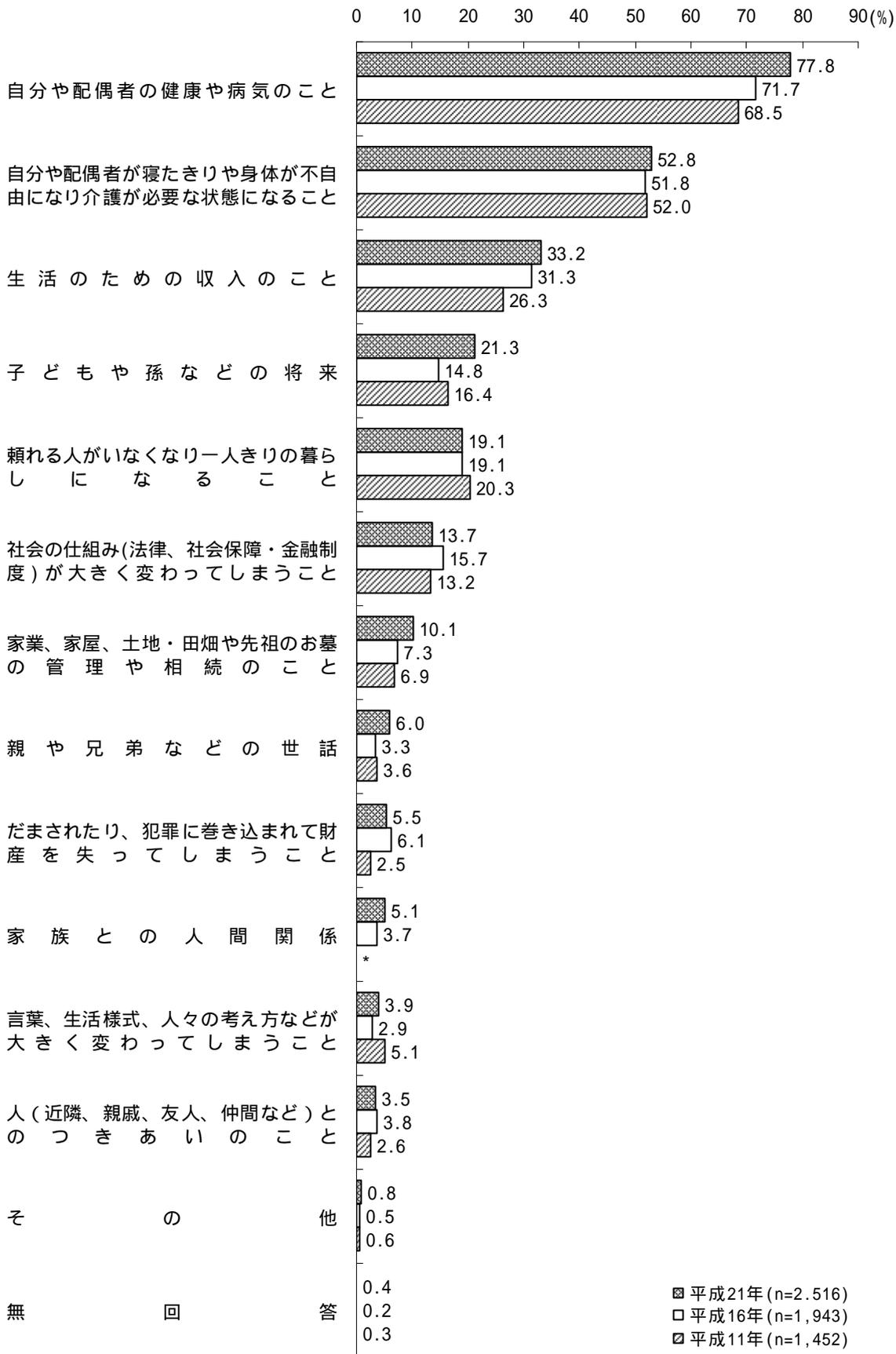
< 経済的状況別 >



< 健康状態別 >



Q7SQ「不安を感じる点はどのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。」
 (複数回答)

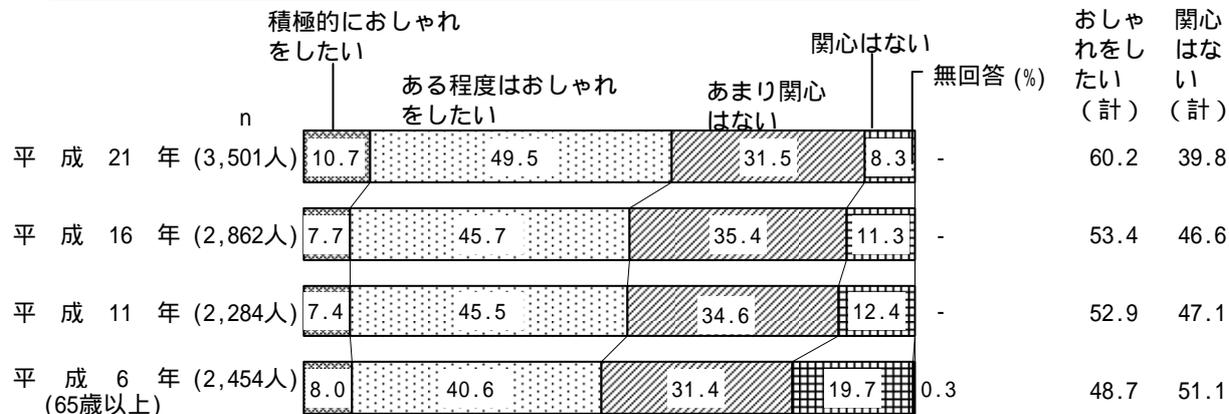


注) *は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

ポイント2 高齢者のおしゃれへの関心が高まっている

- ・ おしゃれの関心度について、「おしゃれをしたい」と回答した人の割合は60.2%で、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて60%を超えた。
- ・ 女性の7割が「おしゃれをしたい」と考えており、また、社会参加活動に参加している人としていない人ではおしゃれへの関心度が顕著に異なる。

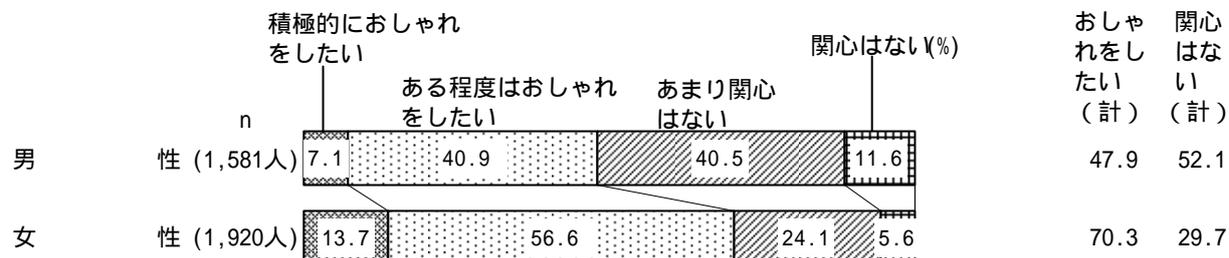
Q16 「あなたは、おしゃれについてどの程度関心がありますか。」



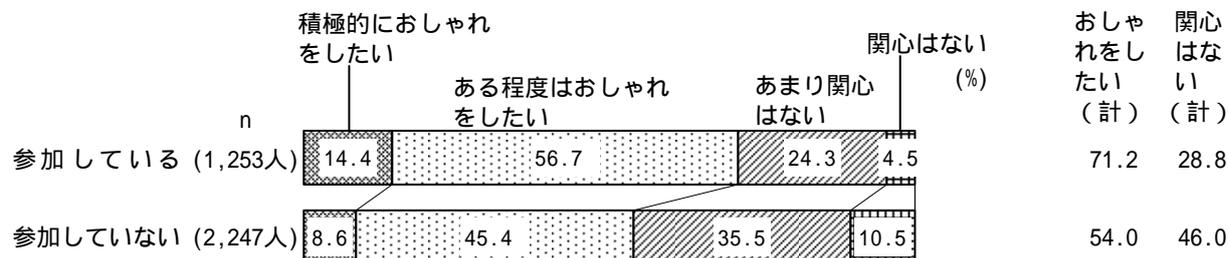
(注) 平成6年は65歳以上の者が対象。

Q16 「あなたは、おしゃれについてどの程度関心がありますか。」

< 男女別 >



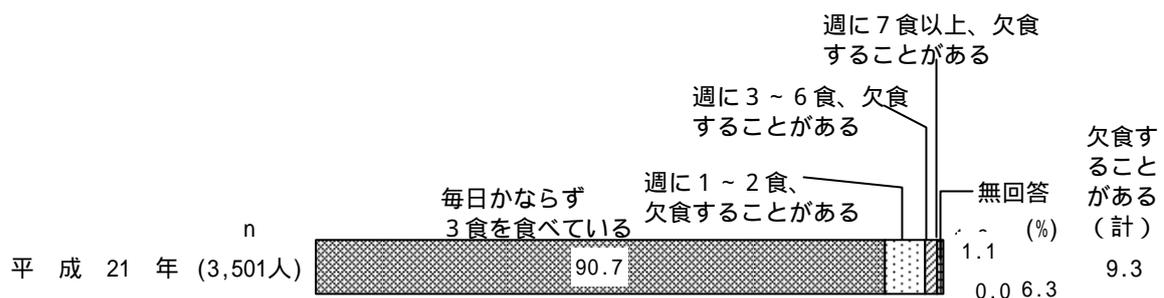
< 社会参加活動の参加の有無別 >



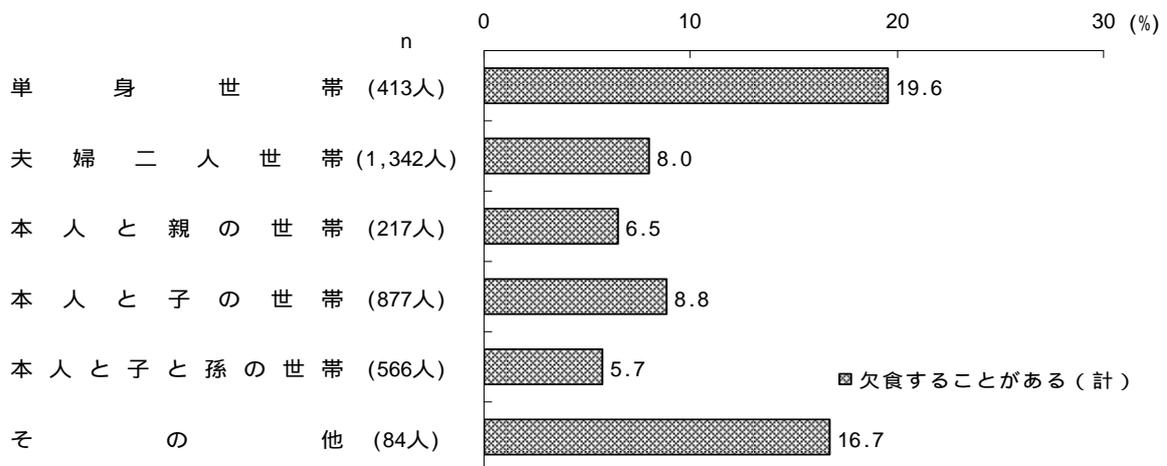
ポイント3 日頃の食生活において、単身世帯及び経済的にゆとりが少ない人ほど欠食している

- ・ 食生活における食事の回数について、「毎日かならず3食を食べている」と回答した人の割合は90.7%に対し、「欠食することがある」（「週に1～2回欠食することがある」、「週に3～6回欠食することがある」、「週に7回以上欠食することがある」の計）と回答した人の割合は9.3%であった。
- ・ 特に単身世帯及び経済的にゆとりが少ない人ほど「欠食することがある」と回答した人の割合が高く、「単身世帯」では19.6%、「家計が苦しく非常に心配である」と回答した人では18.8%。

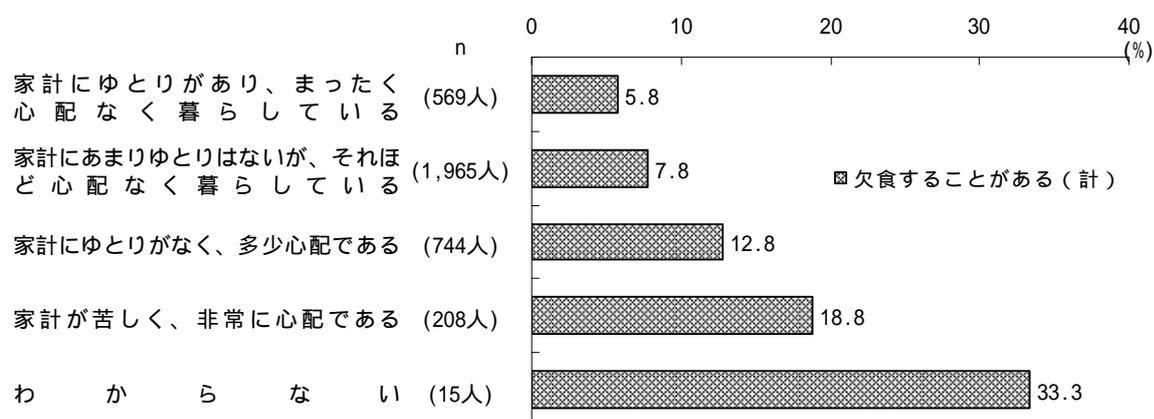
Q18「最近の1か月間、あなたの食事（食事とは朝食・昼食・夕食を指し、間食・夜食は除く）の回数を教えてください。」



<世帯別>



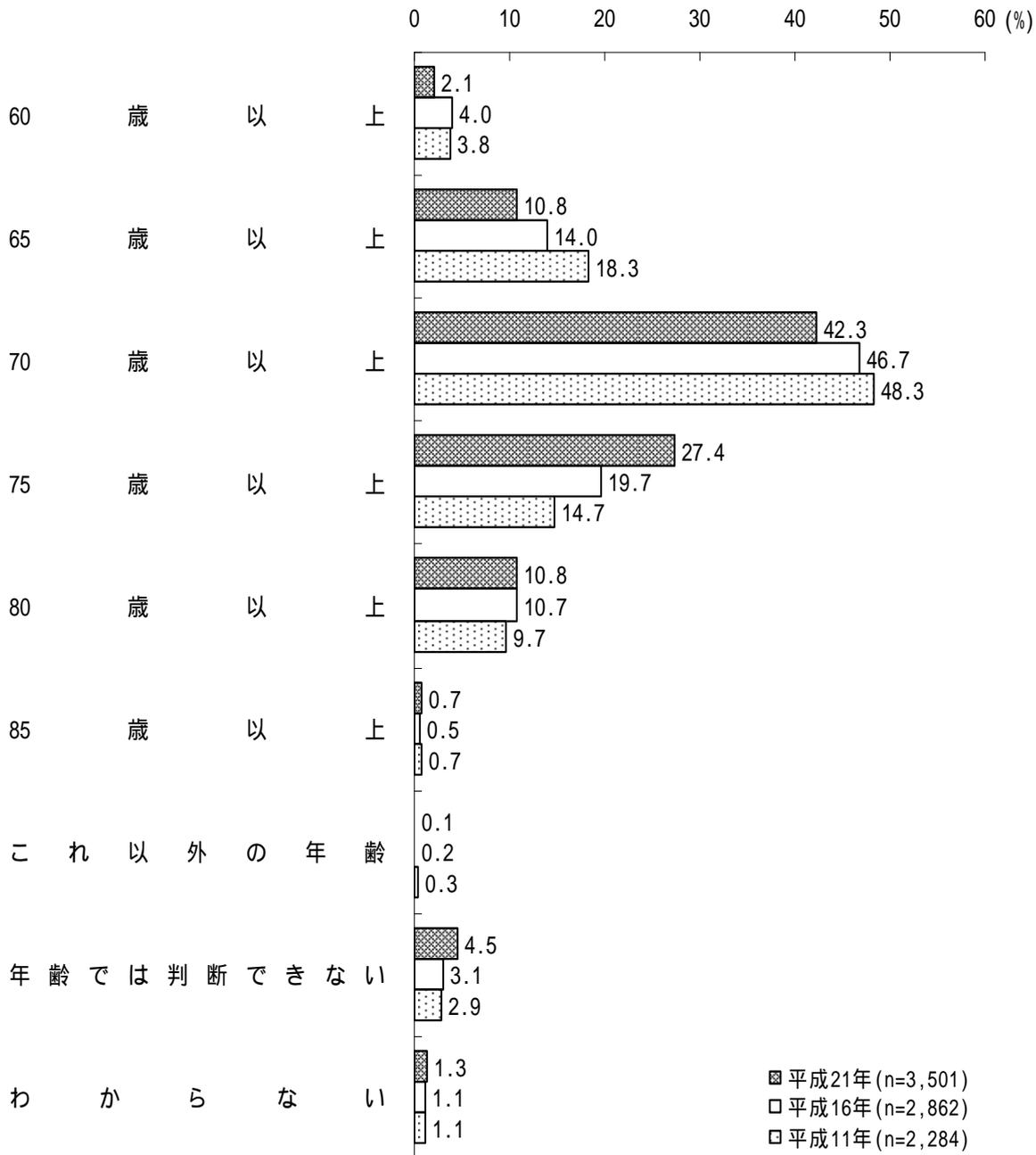
<経済的状況別>



ポイント4 「一般的に高齢者とは何歳以上だと思うか」について、「70歳以上」と考えている人の割合は42.3%、「支えられるべき高齢者」については「80歳以上」と考えている人の割合は32.4%で最も多い。

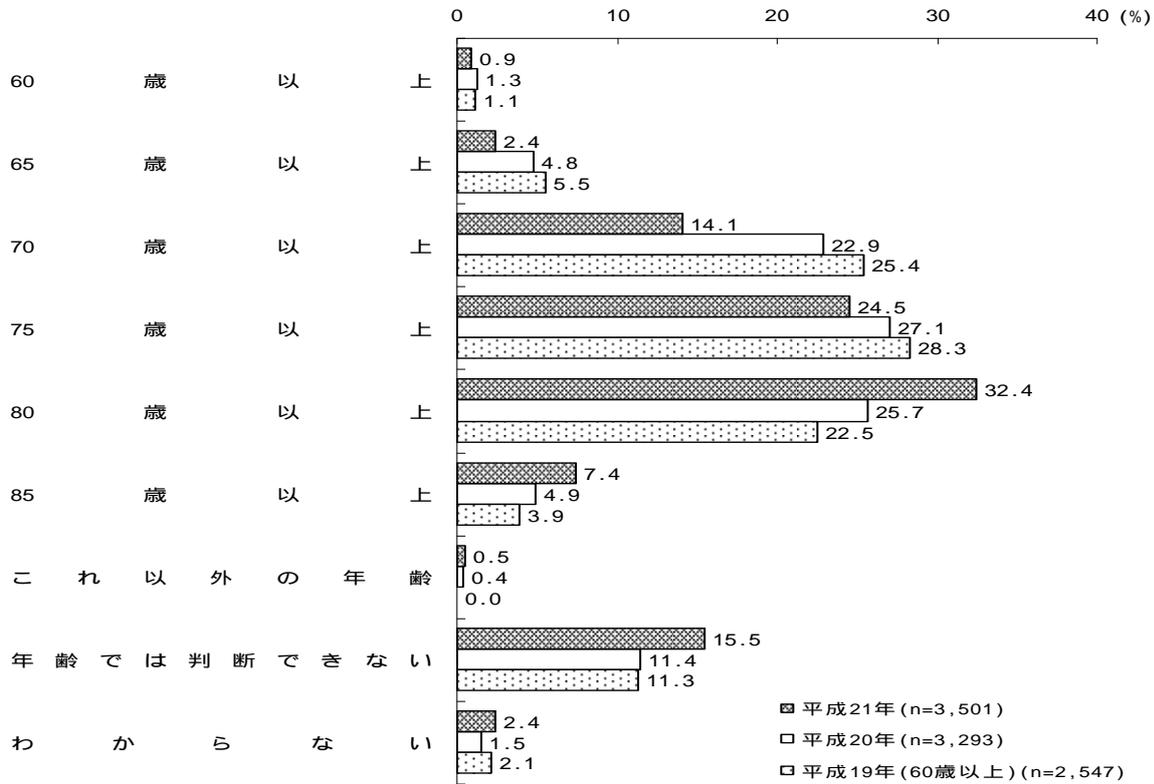
- 一般的に高齢者とは何歳以上だと思うかについて、「70歳以上」と回答した人の割合は42.3%で最も高いが、その傾向は減少しており、「75歳以上」と回答した人の割合は増加傾向。

Q41 「あなたは、一般的に高齢者とは何歳以上だと思いますか。」



- 一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思うかについて、「80歳以上」と回答した人の割合32.4%で最も高く、過去の調査と比較する増加傾向。また年齢別にみてもすべての年齢階層で「80歳以上」と回答した人が多い。

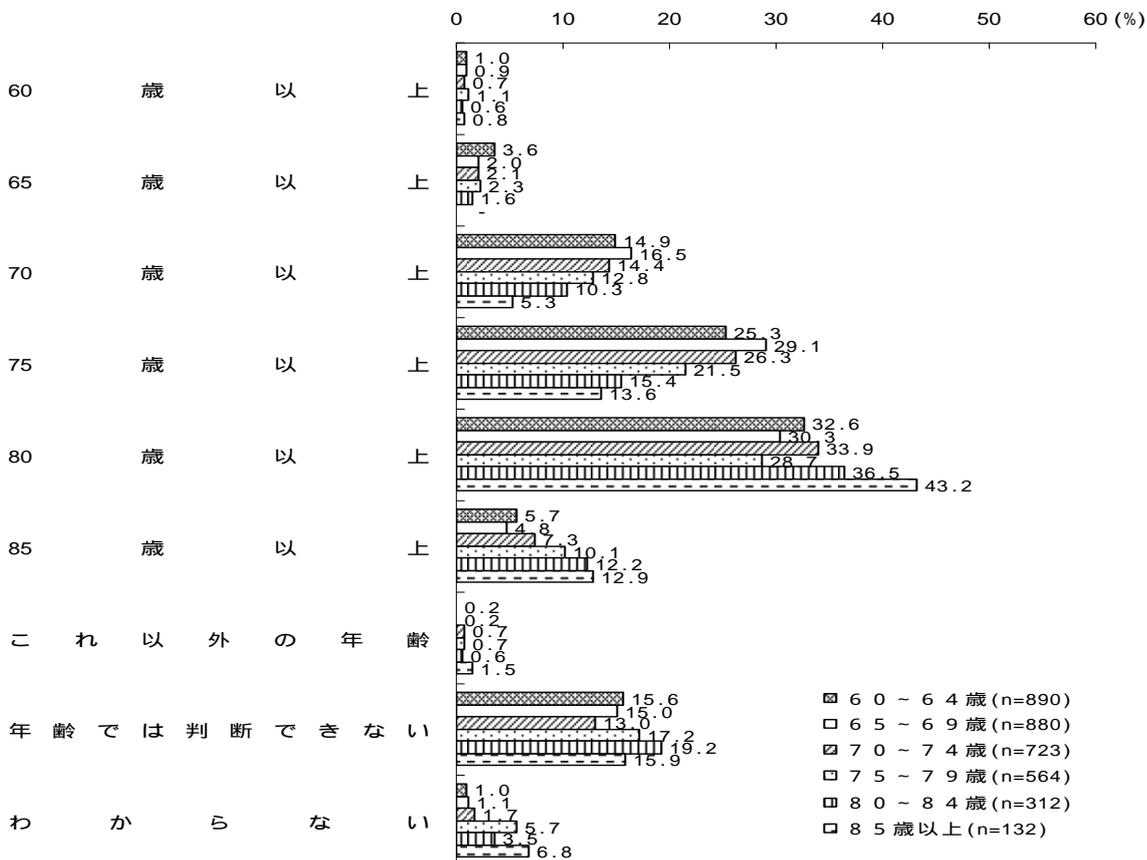
Q 4 2 「あなたは、一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思いますか。」



(注1) 平成19年は「高齢者の健康に関する意識調査」における60歳以上対象者の回答結果。

(注2) 平成20年は「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」における回答結果。

<年齢別>



「高齢者の日常生活に関する意識調査」結果の概要

調査の目的

本調査は、日常生活の状況、生活の満足度、衣食住を始め、家事、外出、日常的楽しみ、日常生活の情報に関する満足度など、高齢者の日常生活全般の実態と意識を把握するとともに、既に行われている3回の調査（平成6年、平成11年、平成16年）などとの時系列分析を行い、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的として実施した。

調査項目

- 1．基本的生活に関する事項
- 2．衣類に関する事項
- 3．食生活に関する事項
- 4．住宅に関する事項
- 5．日常生活の行動・意識に関する事項
- 6．日常的楽しみに関する事項
- 7．日常生活情報に関する事項
- 8．その他

調査対象

- (1) 母集団
全国の60歳以上の男女
- (2) 標本数
5,000人
- (3) 抽出方法
層化二段無作為抽出法

調査時期

平成21年10月22日～11月8日

調査方法

調査員による面接聴取法

調査実施機関

社団法人 中央調査社

回収結果

(1) 有効回収数 (率)

3,501 人 (70.0%)

(2) 調査不能数 (率)

1,499 人 (30.0%)

(不能内訳)

転居	58	長期不在	184
一時不在	391	住所不明	47
拒否	674	その他	145

調査対象者の基本属性 (性別・年齢別構成)

(性別)

総数	男性	女性
3,501人	1,581人	1,920人
100.0%	45.2%	54.8%

(年齢別)

総数	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
3,501人	890人	880人	723人	564人	312人	132人
100.0%	25.4%	25.1%	20.7%	16.1%	8.9%	3.8%

過去の調査について

本報告書で結果を引用した過去の調査は次のとおりである。

	(調査名)	(母集団)	(標本数)	(有効回収数)
平成 20 年調査	高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	5,000	3,293
平成 19 年調査	高齢者の健康に関する意識調査	55 歳以上の男女	5,000	3,157
平成 16 年調査	高齢者の日常生活に関する意識調査	60 歳以上の男女	4,000	2,862
平成 11 年調査	高齢者の日常生活に関する意識調査	60 歳以上の男女	3,000	2,284
平成 6 年調査	高齢者の日常生活に関する意識調査	65 歳以上の男女	3,000	2,454

調査結果の概要〈主なポイント〉

1. 基本的生活に関する事項

「健康状態が良い」、「収入が高い」人ほど日常生活全般についての満足度が高い。

「将来の日常生活全般についての不安」について、「不安を感じる」と回答した人は71.9%で、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて70%を超えた。また、「経済的にゆとりがない」、「健康状態が良くない」人ほど、「不安を感じる」と回答した人が多い。

「日ごろから特に心がけていること」について、「衣服（時候、場所、目的にあった服、おしゃれなど）」と回答した人が前回調査と比較して大幅に増加。

2. 衣類に関する事項

「市販衣類に関する意見」について、男性は「特に不満はない」と回答した人が81.0%と圧倒的だったのに対して、女性は具体的な意見を持っている。

「おしゃれへの関心度」について、「おしゃれをしたい」と回答した人の割合は60.2%で、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて60%を超えた。

女性の7割が「おしゃれをしたい」と考えており、また、社会参加活動に参加している人としていない人ではおしゃれへの関心度が顕著に異なる。

3. 食生活に関する事項

「食生活における食事の回数」について、「毎日かならず3食を食べている」と回答した人の割合は90.7%に対し、「欠食することがある」と回答した人の割合は9.3%であった。

「欠食することがある」と回答した人について、特に単身世帯及び経済的にゆとりが少ない人ほど欠食している。

「外食・弁当・給食サービスの利用状況」について、「まったくない」が40.8%と最も多いが、「ほとんど毎日」が2.7%であり、過去の調査と比較する増加傾向であった。

「食事の用意ができなくなった場合の各種食事サービスの利用意向」について、「公的な配食サービス」と回答した人の割合は31.0%と最も高いが、過去の調査と比較すると減少傾向であり、一方、「民間による多様な配食サービス」と回答した人の割合は20.3%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

4 . 住宅に関する事項

「現在住んでいる住宅についての不満」について、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が16.8%で最も多く、過去の調査と比較すると増加傾向。

5 . 日常生活の行動・意識に関する事項

「外出の頻度」について、「ほとんど毎日」と回答した人の割合は52.0%で最も多く、「月に2～3回以下」と回答した人の割合は5.9%であった。

「月に2～3回以下」と回答した人についてみると、特に収入が少ない及び年齢が高い人ほどその傾向が高い。

「自分一人で利用できる主な外出手段」について、「自動車、バイク、スクーター(いずれも自ら運転するもの。身体障害者等が運転できるよう特別に装備されているものを含む。)」と回答した人の割合は55.0%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

6 . 日常的楽しみに関する事項

「普段の生活での楽しみ」について、「テレビ・ラジオ」と回答した人の割合は79.3%で最も多く、以下「新聞、雑誌」(49.6%)、「仲間と集まったり、親しい友人、同じ趣味の人との交際」(35.6%)、「家族との団らん、孫と遊ぶ」(33.4%)、「食事、飲食」(32.8%)、「旅行」(32.0%)等となっている。

7 . 日常生活情報に関する事項

「日常生活情報に関する満足度」について、「満足している」が30.8%、「まあ満足している」が61.0%で、9割以上の人満足している。

「日常生活情報に関する情報源」について、「テレビ」が81.7%で最も高いが、「インターネット、携帯電話」が、過去の調査と比較すると顕著に増加している。

「欲しい日常生活情報」について、「医療」(17.6%)、「年金」(16.9%)が、過去の調査と比較するといずれも増加傾向。

8 . その他に関する事項

「一般的に高齢者とは何歳以上だと思うか」について、「70歳以上」と回答した人の割合は42.3%で最も高いが、その傾向は減少しており、「75歳以上」と回答した人の割合は増加傾向。

「一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思うか」について、「80歳以上」と回答した人の割合は32.4%で最も高く、過去の調査と比較すると増加傾向。また年齢別にみてもすべての年齢階層で「80歳以上」と回答した人が多い。

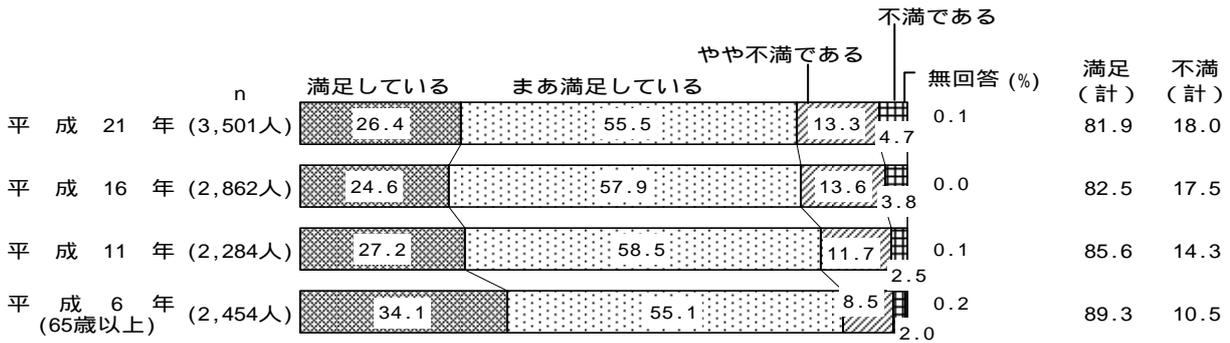
「日々の暮らしに関し社会として重点を置くべきもの」について、「老後を安心して生活できるような収入の保障」と回答した人の割合は55.3%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

調査結果

1. 基本的な生活に関する事項

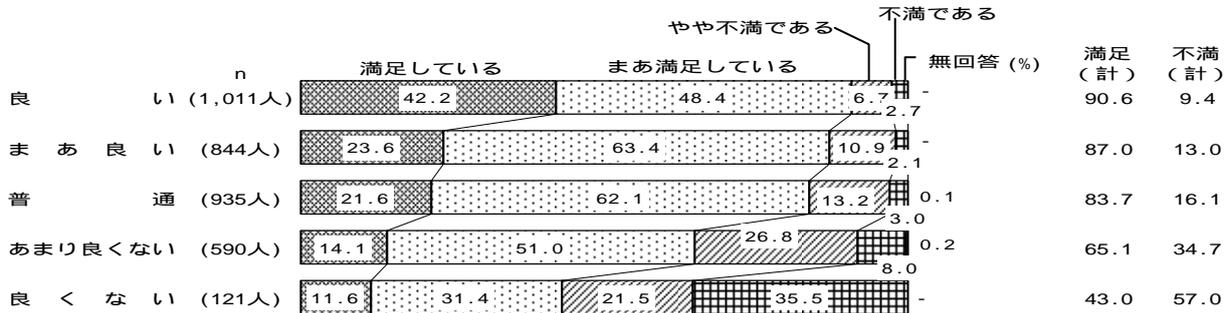
- ・ 5年前と比べて満足度は横ばい。「健康状態が良い」、「収入が高い」人ほど日常生活全般についての満足度が高い。

Q1 「あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか。」

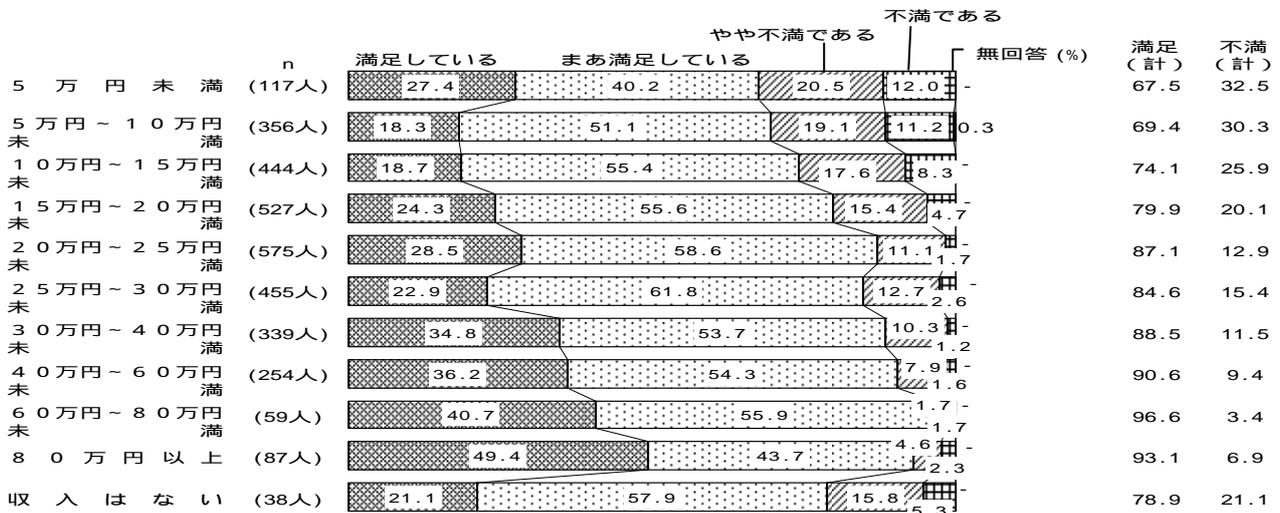


(注) 平成6年は65歳以上の者が対象

< 健康状態別 >

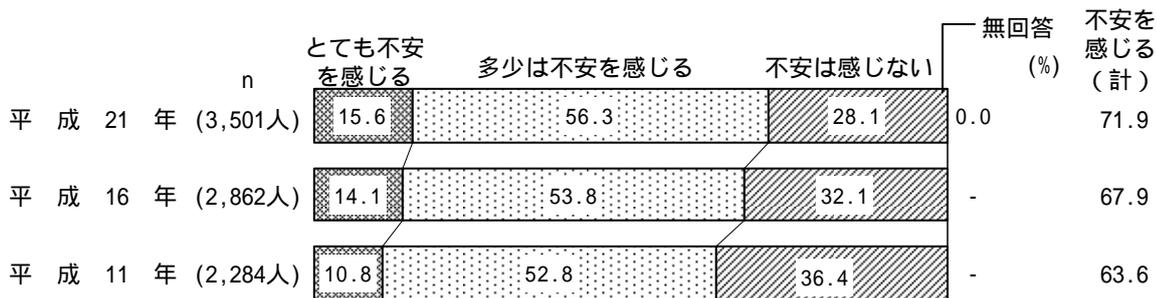


< 収入別 >

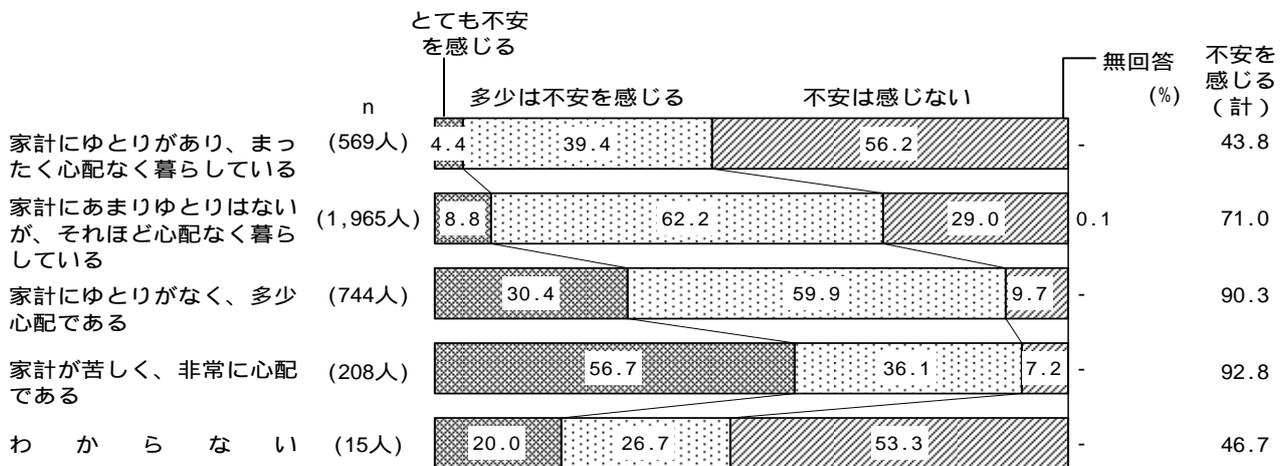


- ・「将来の日常生活全般についての不安」について、「不安を感じる」（「とても不安を感じる」、「多少は不安を感じる」の合計）と回答した人は71.9%で、過去の調査と比較するとやや増加傾向。また、「経済的にゆとりがない」、「健康状態が良くない」人ほど、「不安を感じる」と回答した人が多い。
- ・「不安を感じる点」について、「自分や配偶者の健康や病気のこと」と回答した人は77.6%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

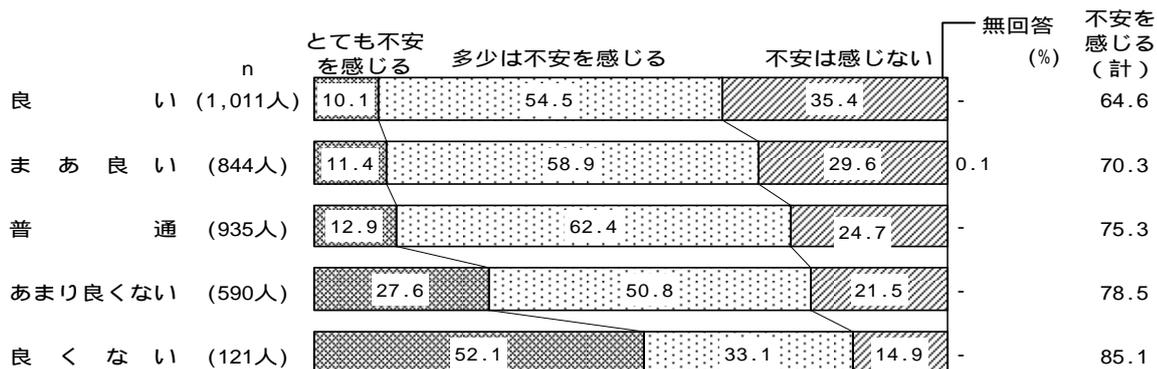
Q7「あなたは、将来の自分の日常生活全般について不安を感じますか。」



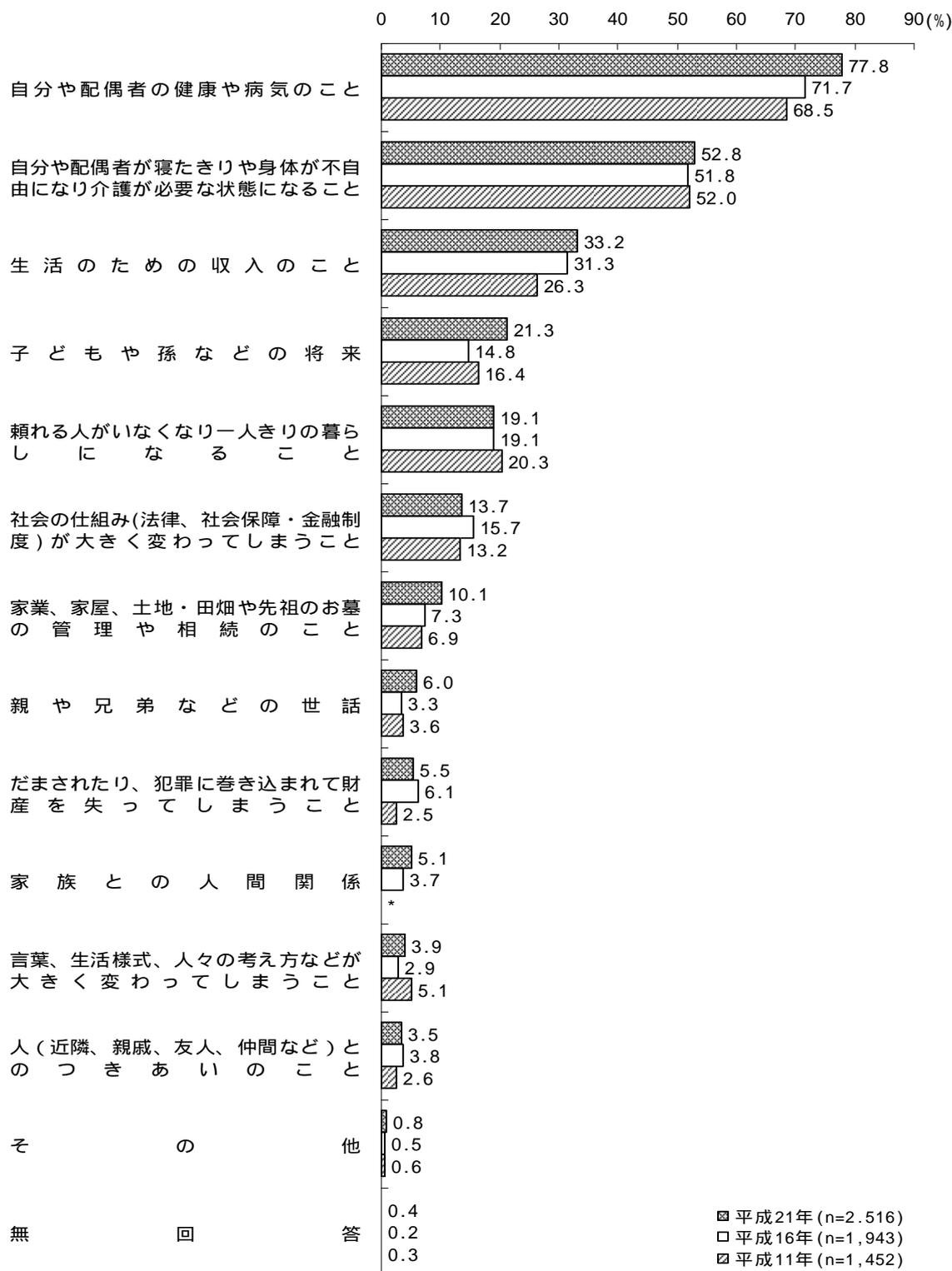
< 経済的状况別 >



< 健康状態別 >



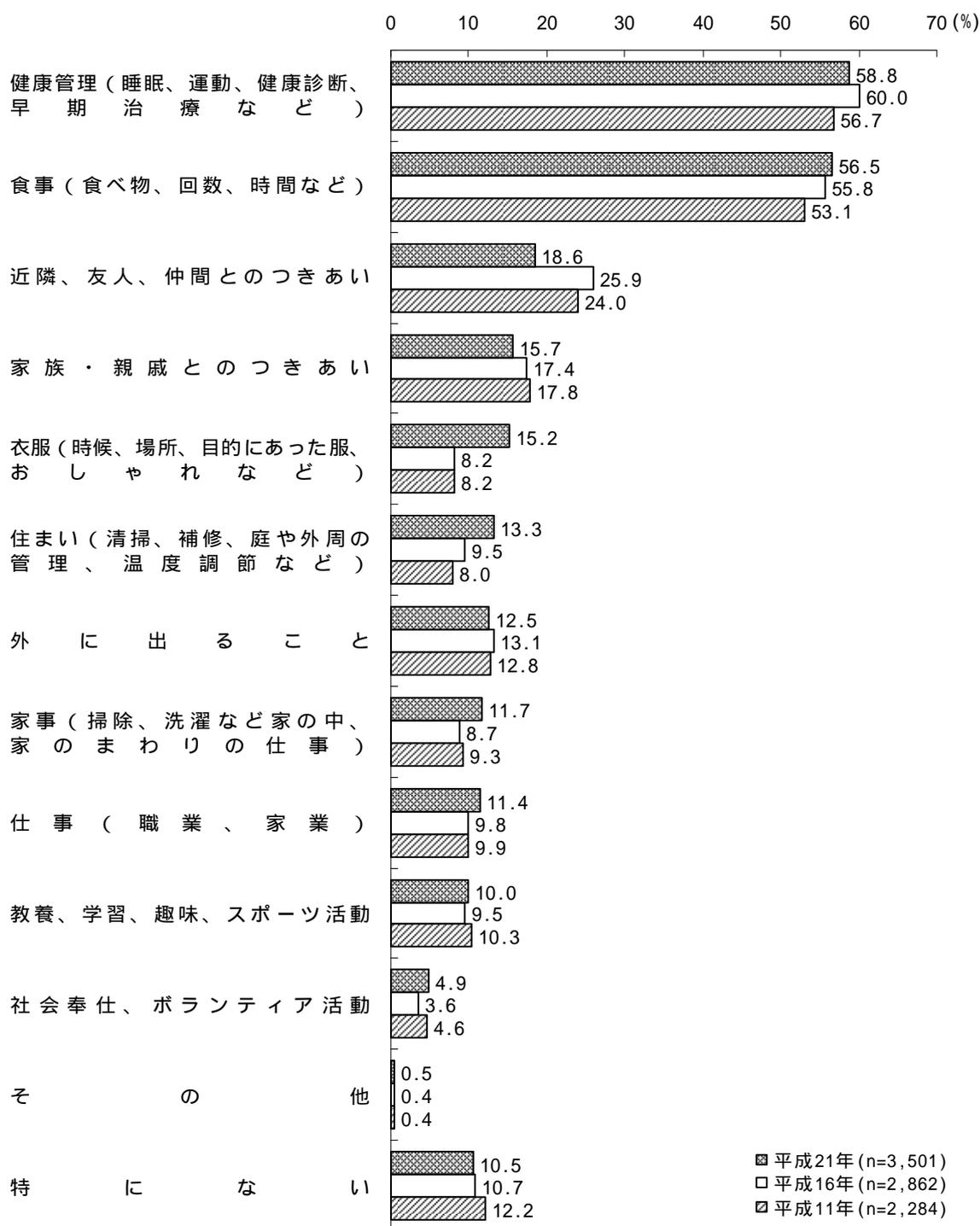
Q7SQ「不安を感じる点は、どのようなことですか。この中から、いくつでもあげてください。」(複数回答)



注) *は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

・「日ごろから特に心がけていること」について、「健康管理」「食事」がそれぞれ約6割。また、「衣服（時候、場所、目的にあった服、おしゃれなど）」と回答した人が前回調査と比較して大幅に増加。

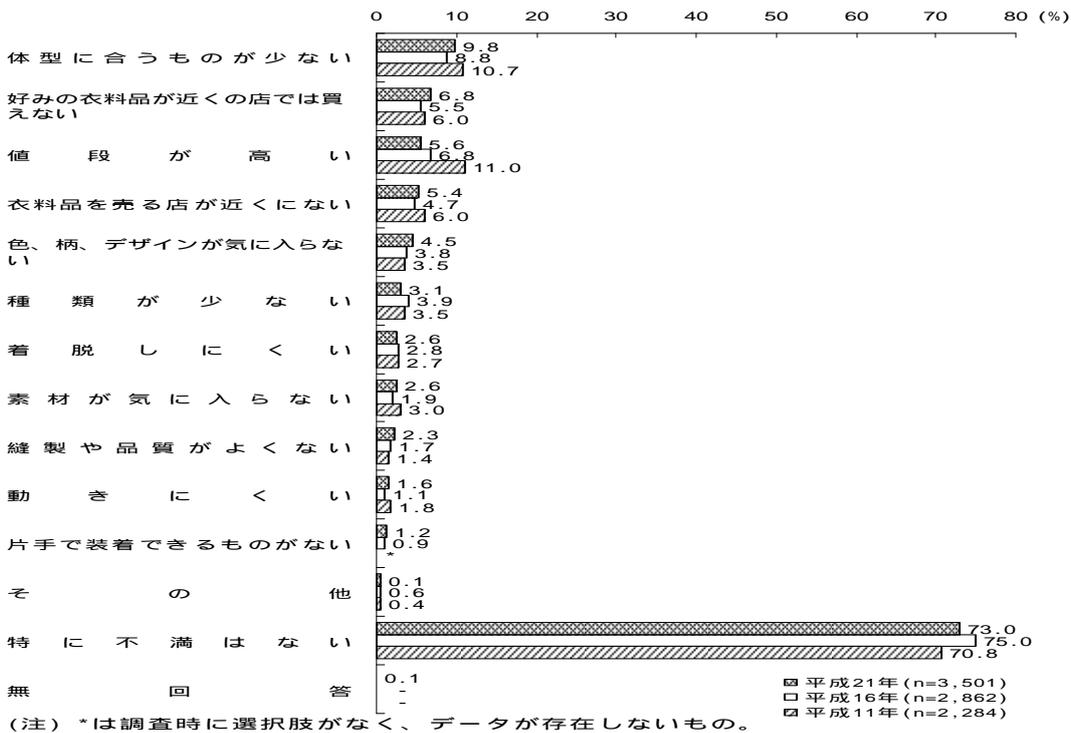
Q12「あなたは、ご自身が日ごろから暮らしている中で、特に心がけている点はどこでしょうか。この中から主なものを3つまでお選びください。」（3つまでの複数回答）



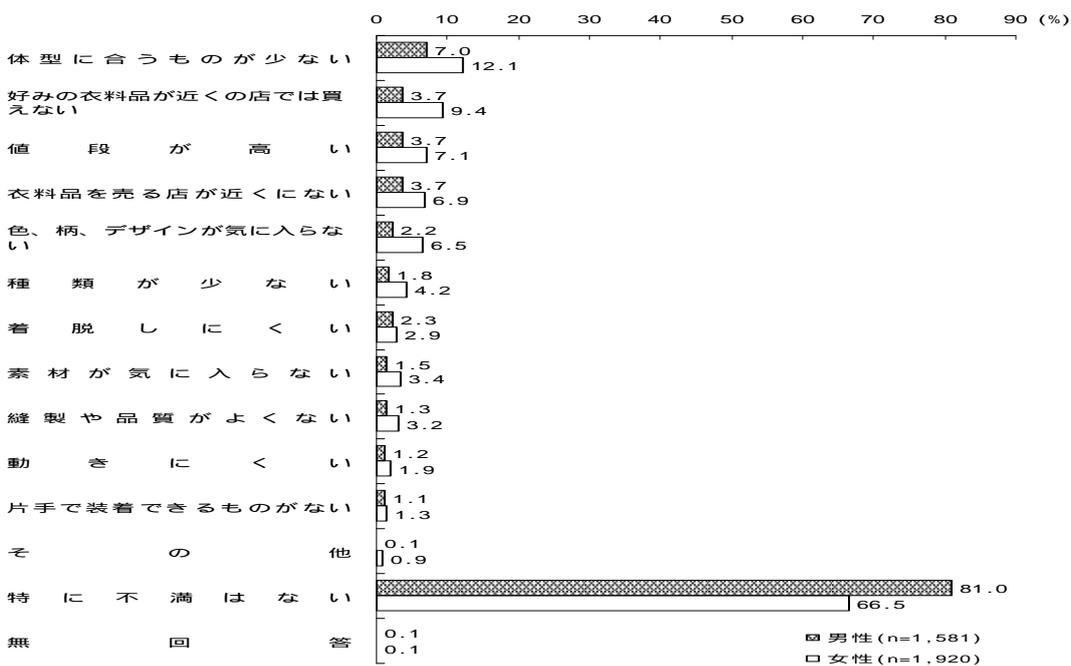
2. 衣類に関する事項

・「市販衣類に関する意見」について、男性は「特に不満はない」と回答した人が81.0%と圧倒的だったのに対して、女性は具体的な意見を持っている。

Q15 「あなたは、市販の衣類についてどのような意見をお持ちですか。この中からいくつでもあげてください。」（複数回答）

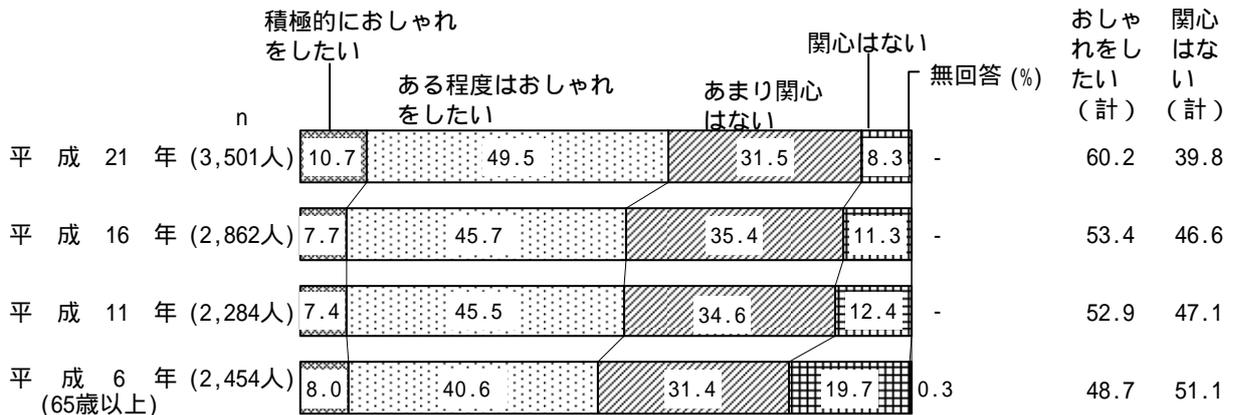


<男女別>



- ・「おしゃれへの関心度」について、「おしゃれをしたい」(「積極的におしゃれをしたい」、「ある程度はおしゃれをしたい」の合計)と回答した人の割合は60.2%で、過去の調査と比較すると増加傾向にある。
- ・女性の7割が「おしゃれをしたい」と考えており、また、社会参加活動に参加している人としていない人ではおしゃれへの関心度が顕著に異なる。

Q16 「あなたは、おしゃれについてどの程度関心がありますか。」



(注) 平成6年は65歳以上の者が対象。

< 男女別 >



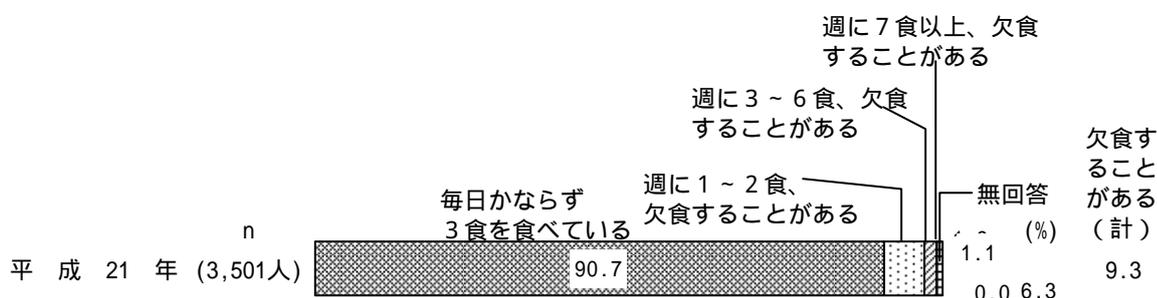
< 社会参加活動の参加の有無別 >



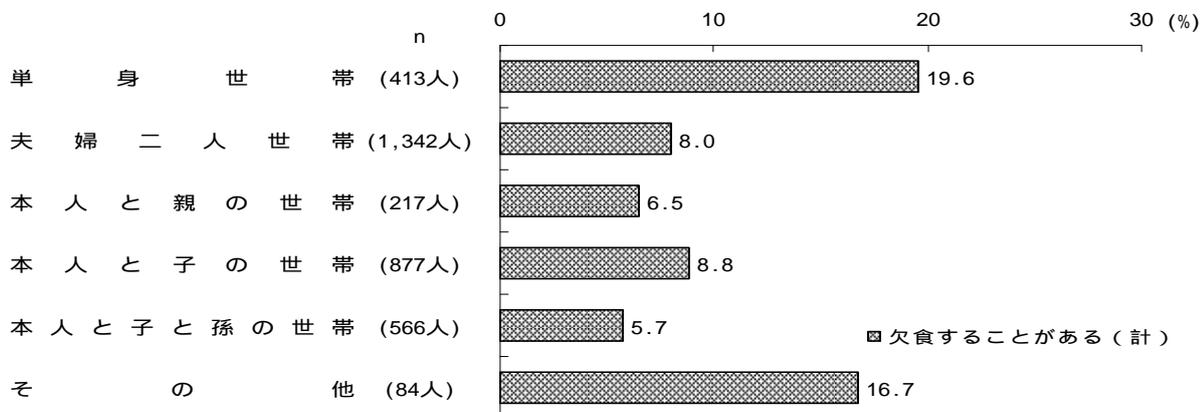
3. 食生活に関する事項

- ・「食生活における食事の回数」について、「毎日かならず3食を食べている」と回答した人の割合は90.7%に対し、「欠食することがある」(「週に1～2食、欠食することがある」、「週に3～6食、欠食することがある」、「週に7食以上、欠食することがある」の合計)と回答した人の割合は9.3%であった。
- ・単身世帯及び経済的にゆとりが少ない人ほど「欠食することがある」の割合が高い。

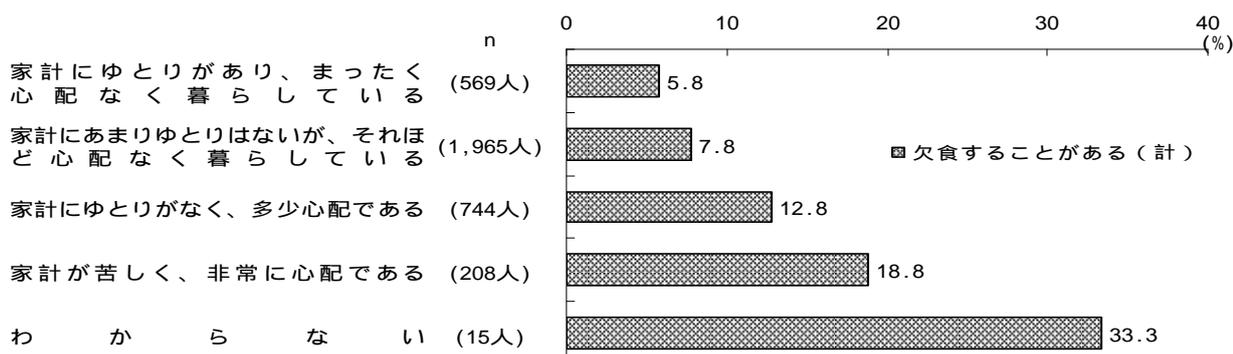
Q18 「最近の1か月間、あなたの食事(食事とは朝食・昼食・夕食を指し、間食・夜食は除く)の回数を教えてください。



<世帯別>

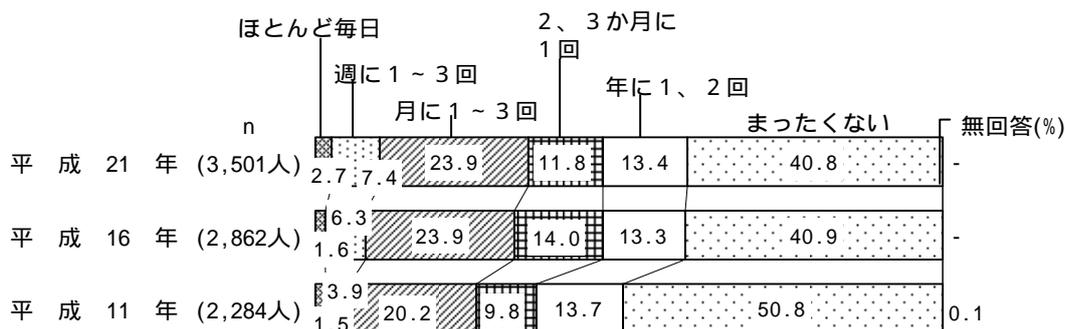


<経済的状況別>

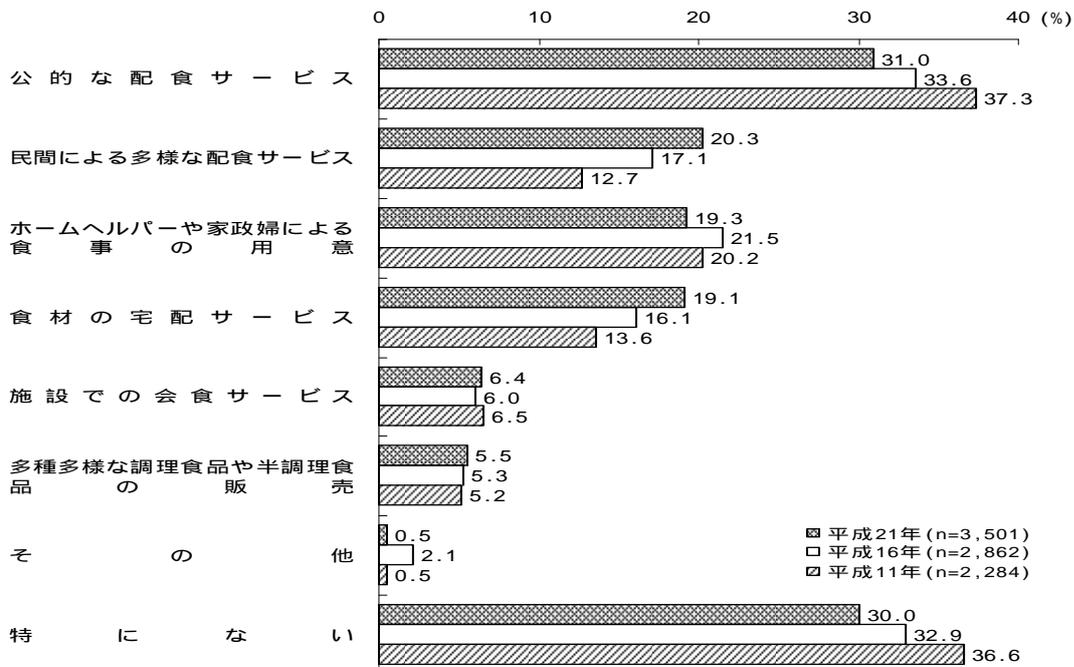


- ・「「外出・弁当・給食サービスの利用状況」について、「まったくない」が40.8%と最も多い。
- ・「「食事の用意ができなくなった場合の各種食事サービスの利用意向」について、「公的な配食サービス」と回答した人の割合は31.0%と最も高いが、過去の調査と比較すると減少傾向であり、一方、「民間による多様な配食サービス」と回答した人の割合は20.3%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

Q 2 1 「あなたは、夕食を、外出や弁当や給食サービスなどでとられることがどの程度ありますか。」



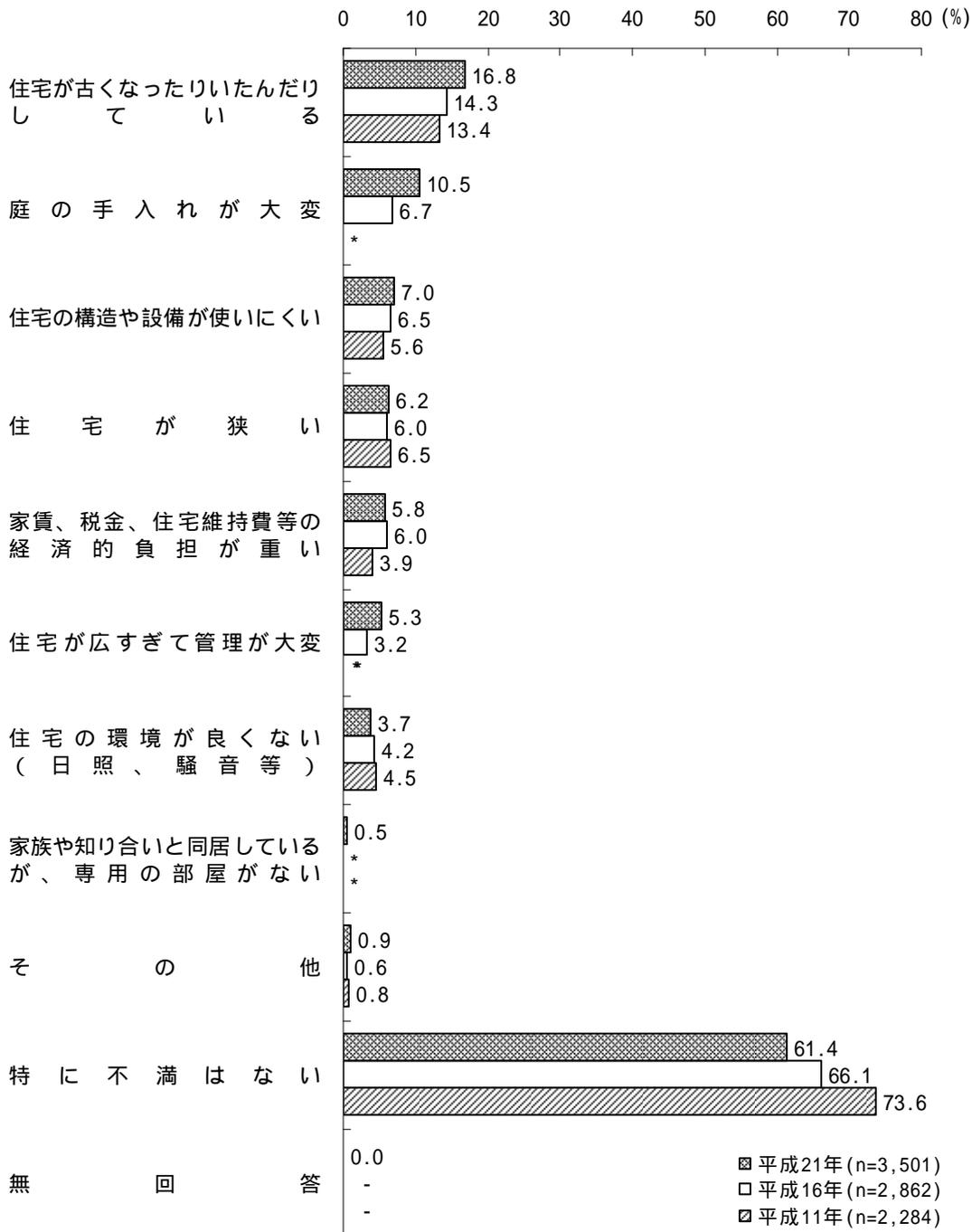
Q 2 3 「最近、食事に関する様々なサービスが提供されてきていますが、あなたは今後、仮に自分で食事の用意が出来なくなったり、用意してくれる人がいなくなった場合、どのようなサービスを利用したいと思いますか。この中から、いくつでもあげてください。」(複数回答)



4. 住宅に関する事項

・「現在住んでいる住宅についての不満」について、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が16.8%で最も多く、過去の調査と比較するとやや増加。

Q25 「あなたは、現在お住まいの住宅について、何か不満な点がありますか。この中から、いくつでもあげてください。」（複数回答）



(注) *は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

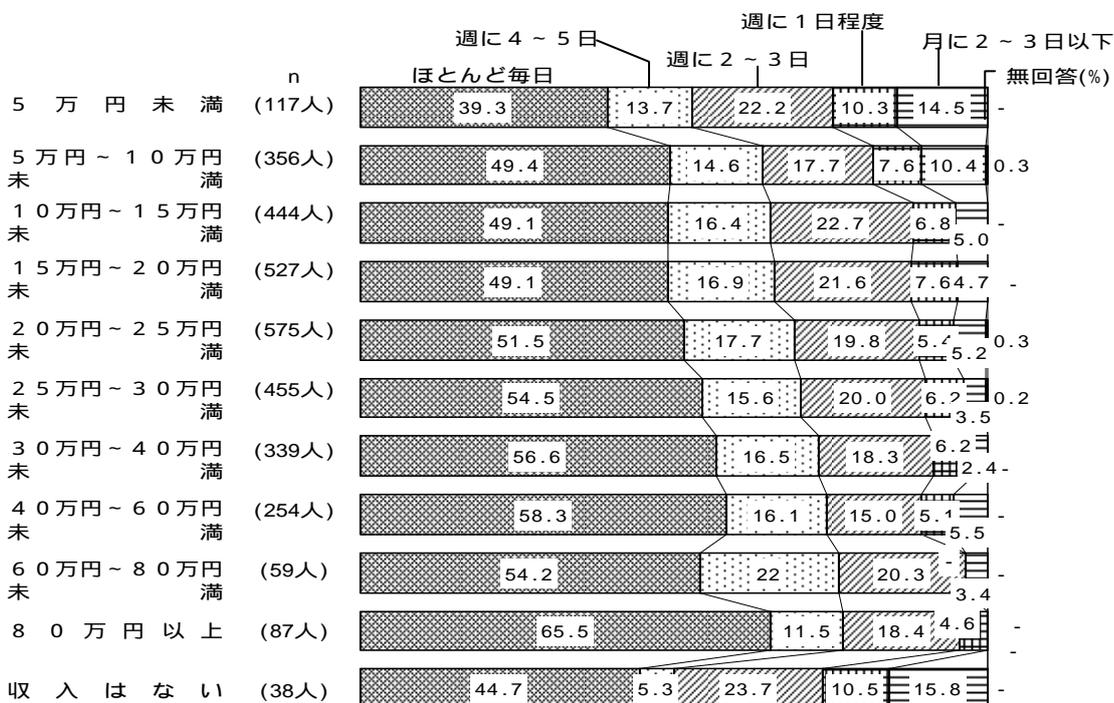
5. 日常生活の行動・意識に関する事項

- ・「外出の頻度」について、「ほとんど毎日」と回答した人が52.0%で最も多い。
- ・収入が少ない人ほど、また、年齢が高い人ほど、外出の頻度が低い傾向。

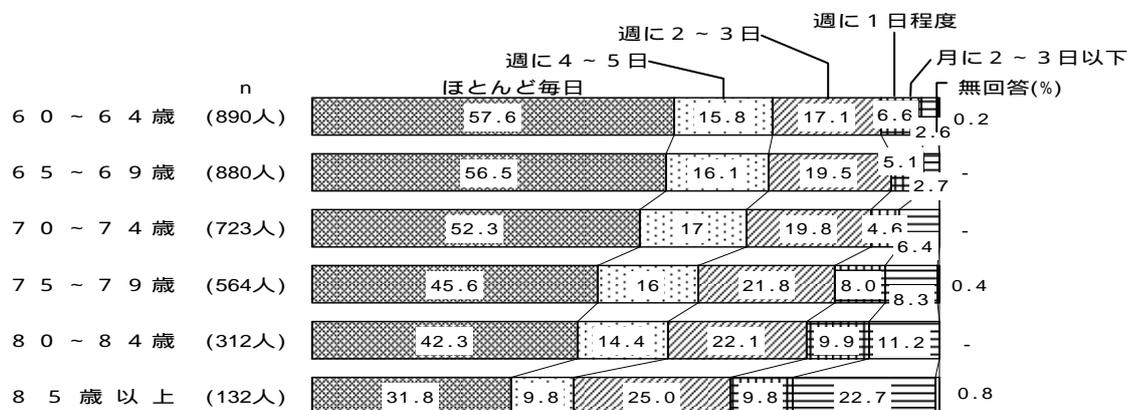
Q29 「あなたは、何かの用（散歩なども含めます）で出かけることが、週に何日くらいありますか。」



< 収入別 >

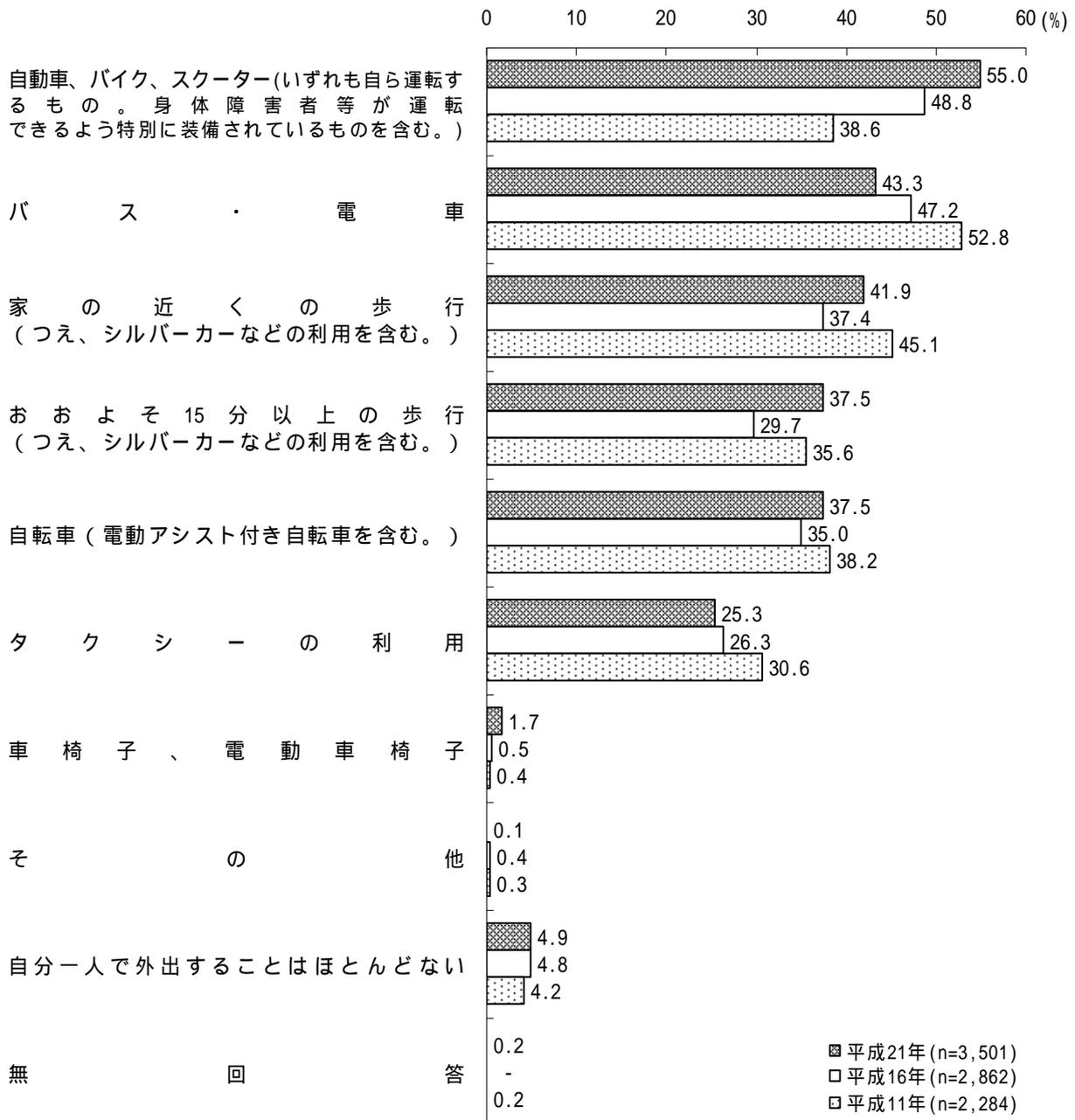


< 年齢別 >



・「自分一人で利用できる主な外出手段について、「自動車、バイク、スクーター（いずれも自ら運転するもの。身体障害者等が運転できるよう特別に装備されているものを含む。）」が55.0%で、過去の調査と比較すると増加している一方、「バス・電車」は減少している。

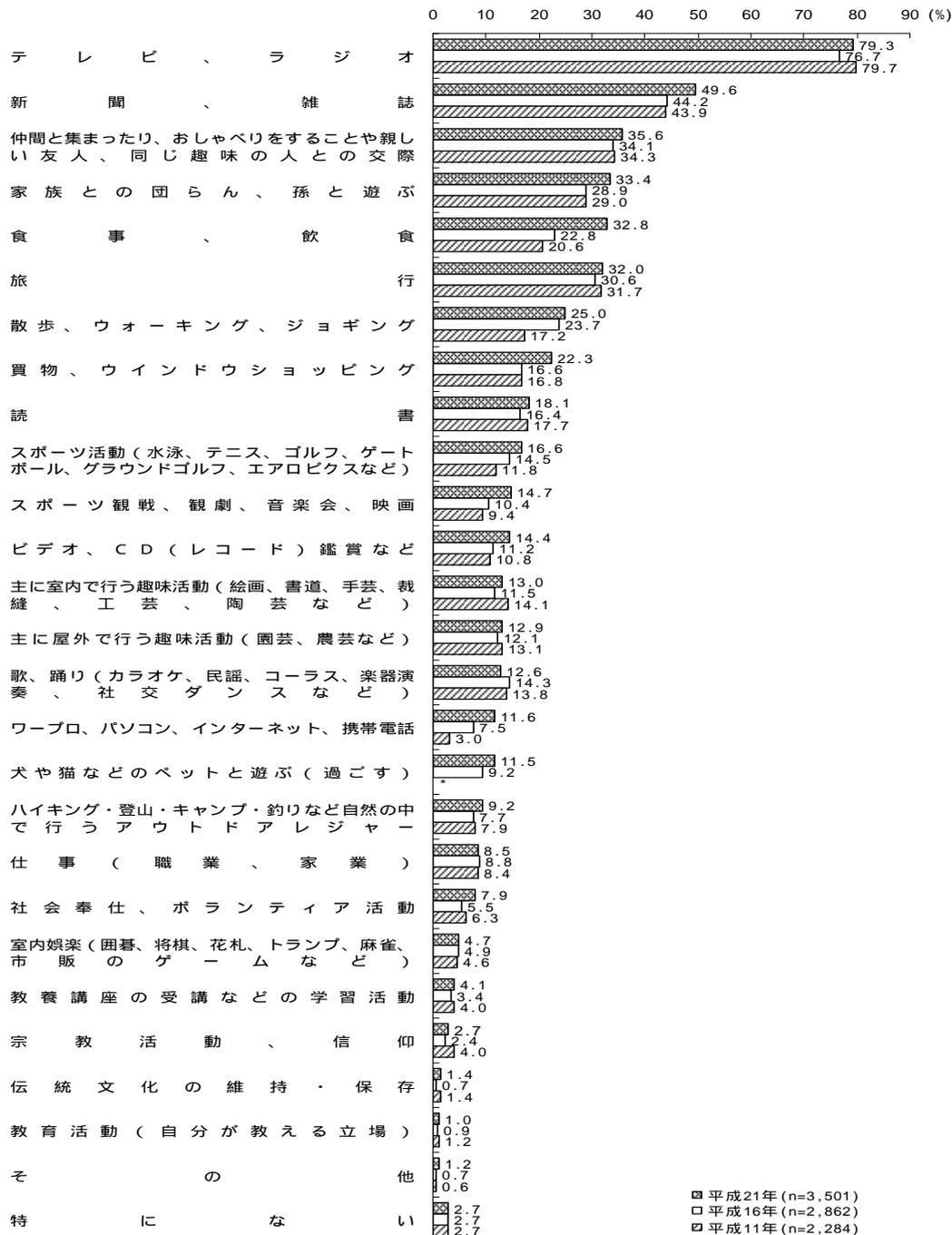
Q31 「あなたは、外出についてはどのような状況ですか。この中から、自分一人で利用できる外出手段をすべてあげてください。（複数回答）



6. 日常的楽しみに関する事項

・「普段の生活での楽しみ」について、「テレビ・ラジオ」と回答した人の割合は79.3%で最も多く、以下「新聞、雑誌」(49.6%)、「仲間と集まったり、親しい友人、同じ趣味の人との交際」(35.6%)、「家族との団らん、孫と遊ぶ」(33.4%)、「食事、飲食」(32.8%)、「旅行」(32.0%)等となっている。

Q33「あなたは、普段の生活でどのようなことを楽しみにしていますか。この中から、いくつでもあげてください。」(複数回答)

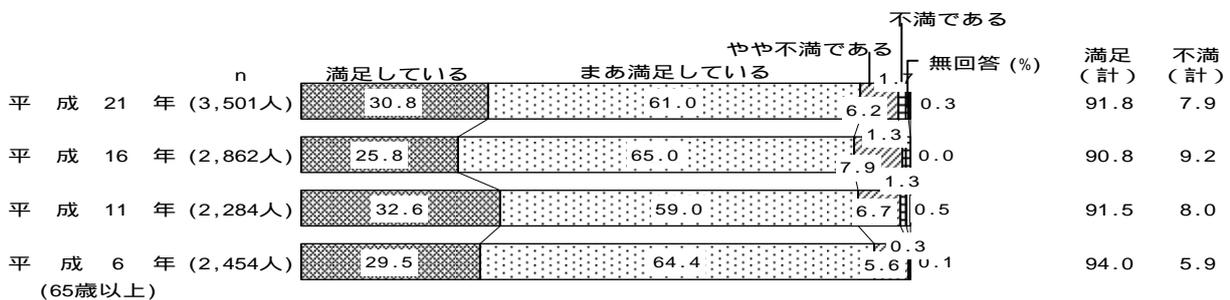


(注) *は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

7. 日常生活情報に関する事項

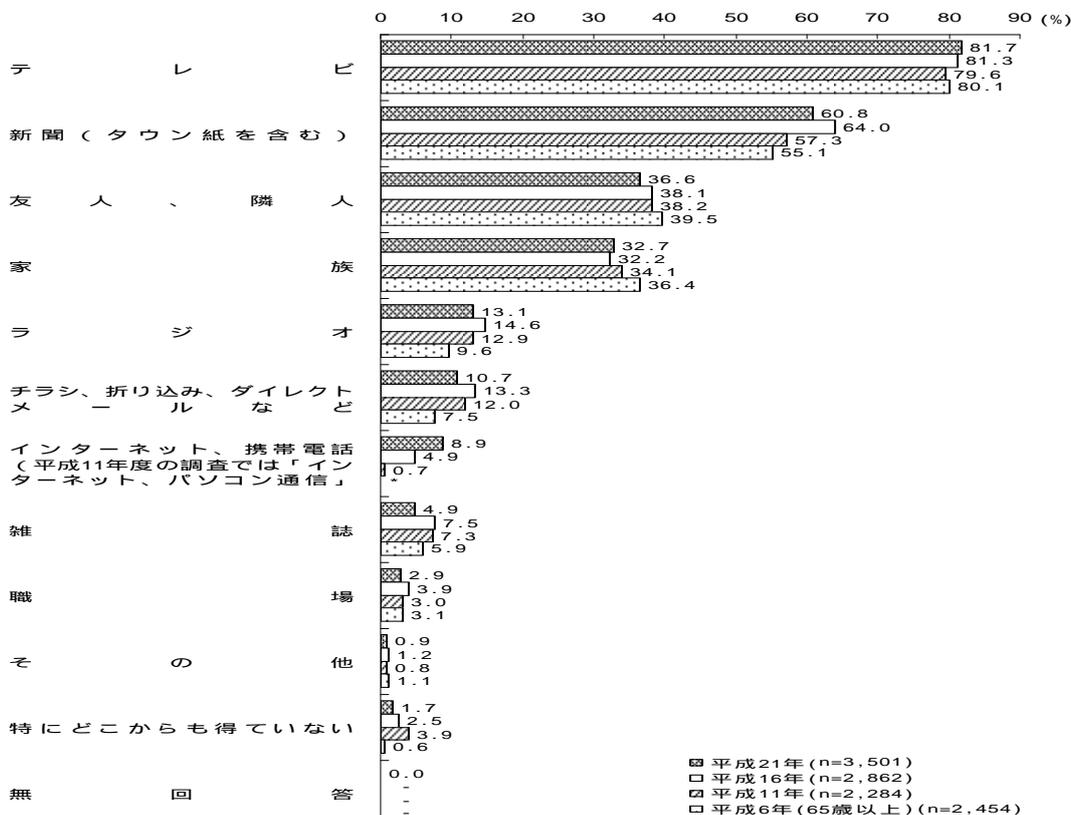
- ・「日常生活情報に関する満足度」について、「満足している」が30.8%、「まあ満足している」が61.0%で、9割以上の人満足している。
- ・「日常生活情報に関する情報源」について、「テレビ」が81.7%で最も高いが、「インターネット、携帯電話」が過去の調査と比較すると顕著に増加している。
- ・「欲しい日常生活情報」については、「医療」「健康づくり」「年金」がそれぞれ約2割。欲しい日常生活情報が「特になし」と回答した人も約半数を占める。

Q36 「あなたは日常生活に関する情報に満足していますか。」



(注) 平成6年は、65歳以上の者が対象

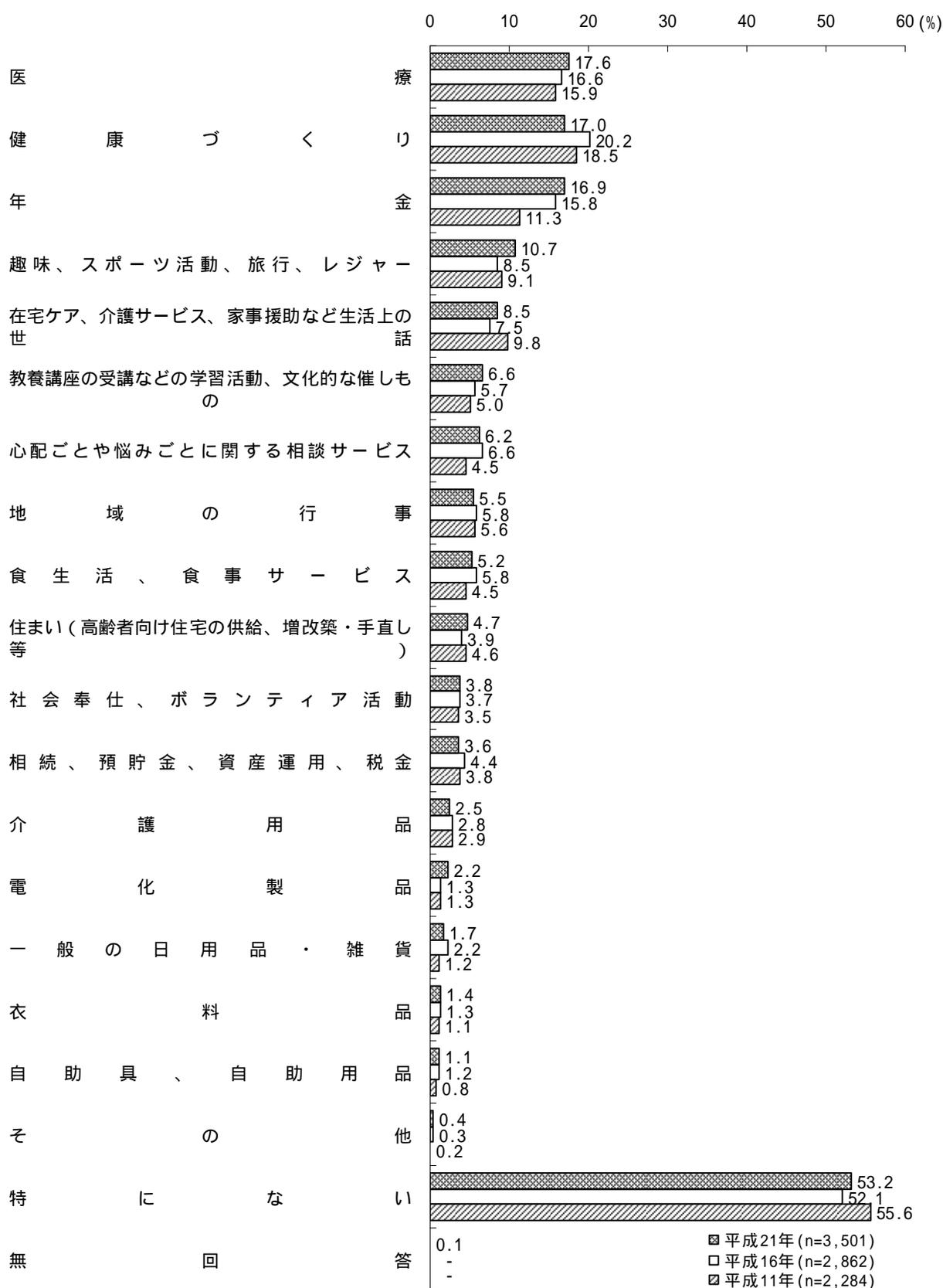
Q37 「あなたは、日常生活に関する情報をどこから得ていますか。この中から主なものを3つまであげてください。」(3つまでの複数回答)



(注1) 平成6年は65歳以上の者が対象。

(注2) *は調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

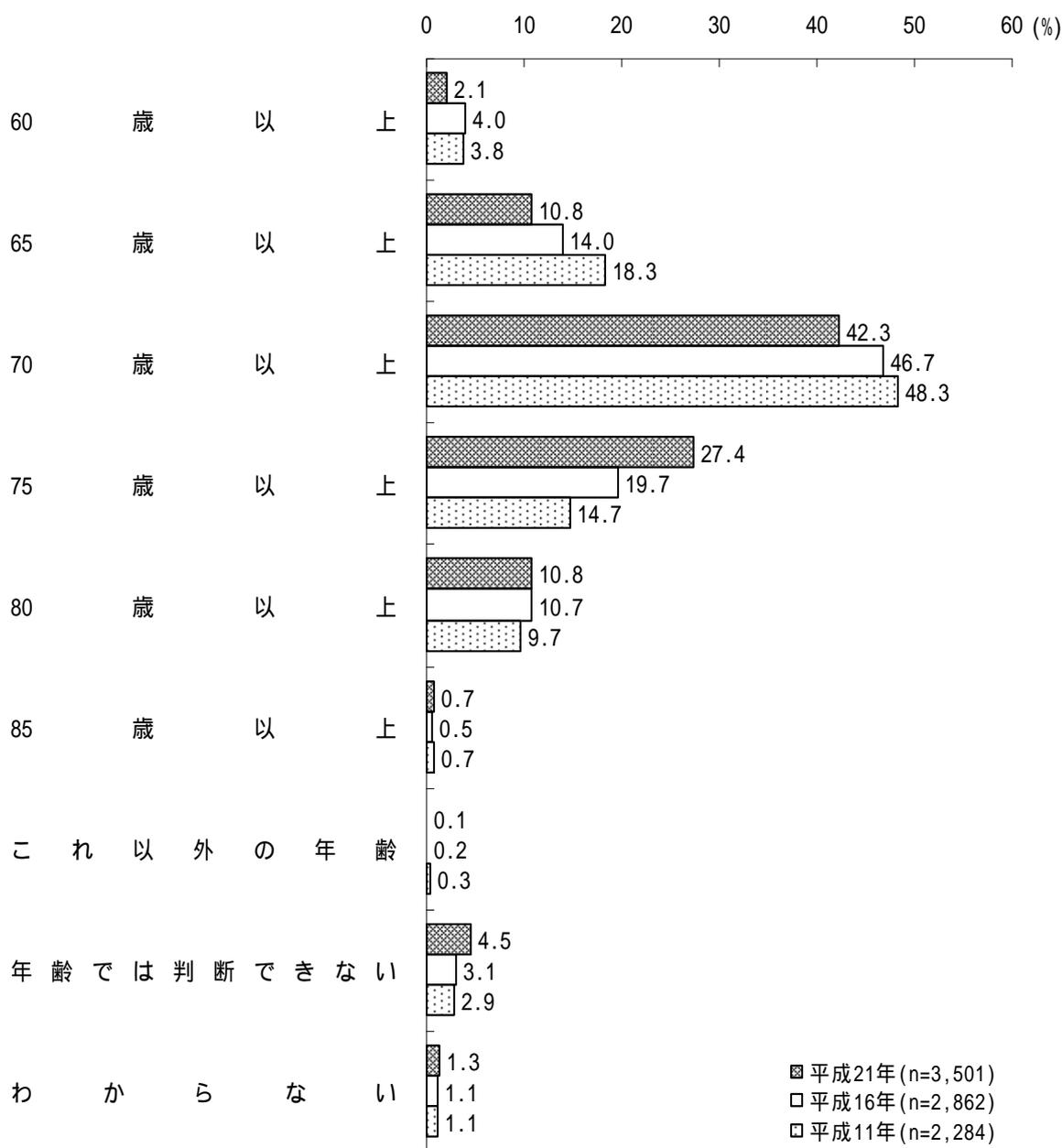
Q40「日常生活に関する情報で、もっと欲しい内容がありますか。この中から、あてはまるものをいくつでもあげてください。（複数回答）



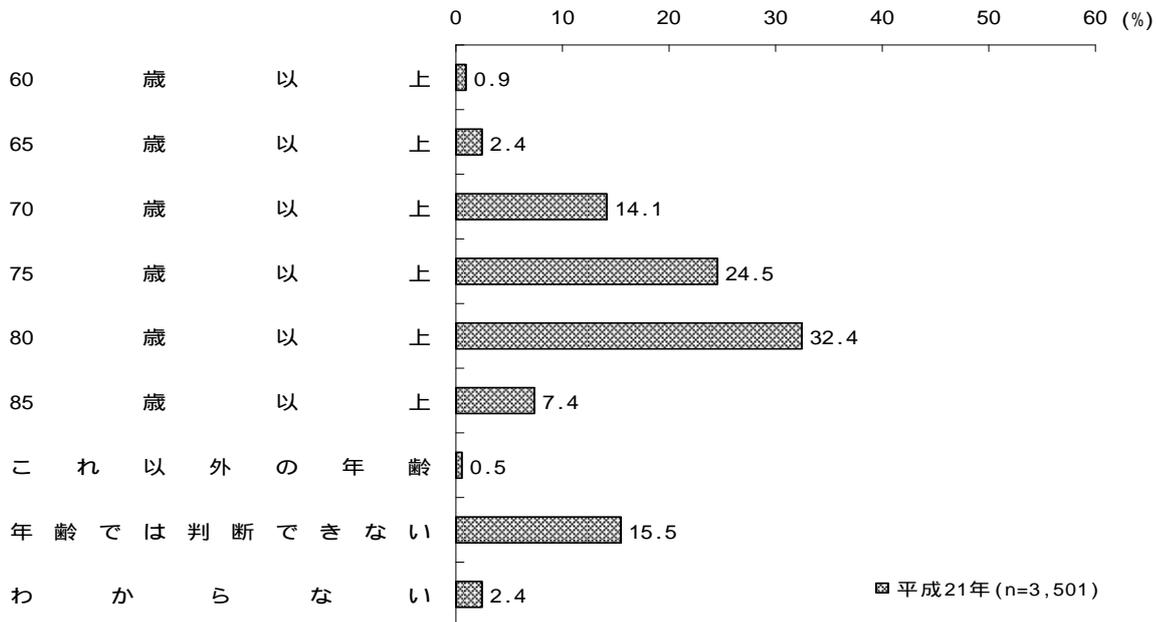
8. その他に関する事項

- ・「一般的に高齢者とは何歳以上だと思うか」について、「70歳以上」と回答した人の割合は42.3%で最も高いが、過去の調査と比べると減少しており、「75歳以上」と回答した人の割合が増加している。
- ・「一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思うか」について、「80歳以上」と回答した人の割合は32.4%で最も高く、過去の調査と比較すると増加傾向。また年齢別にみてもすべての年齢階層で「80歳以上」と回答した人が多い。

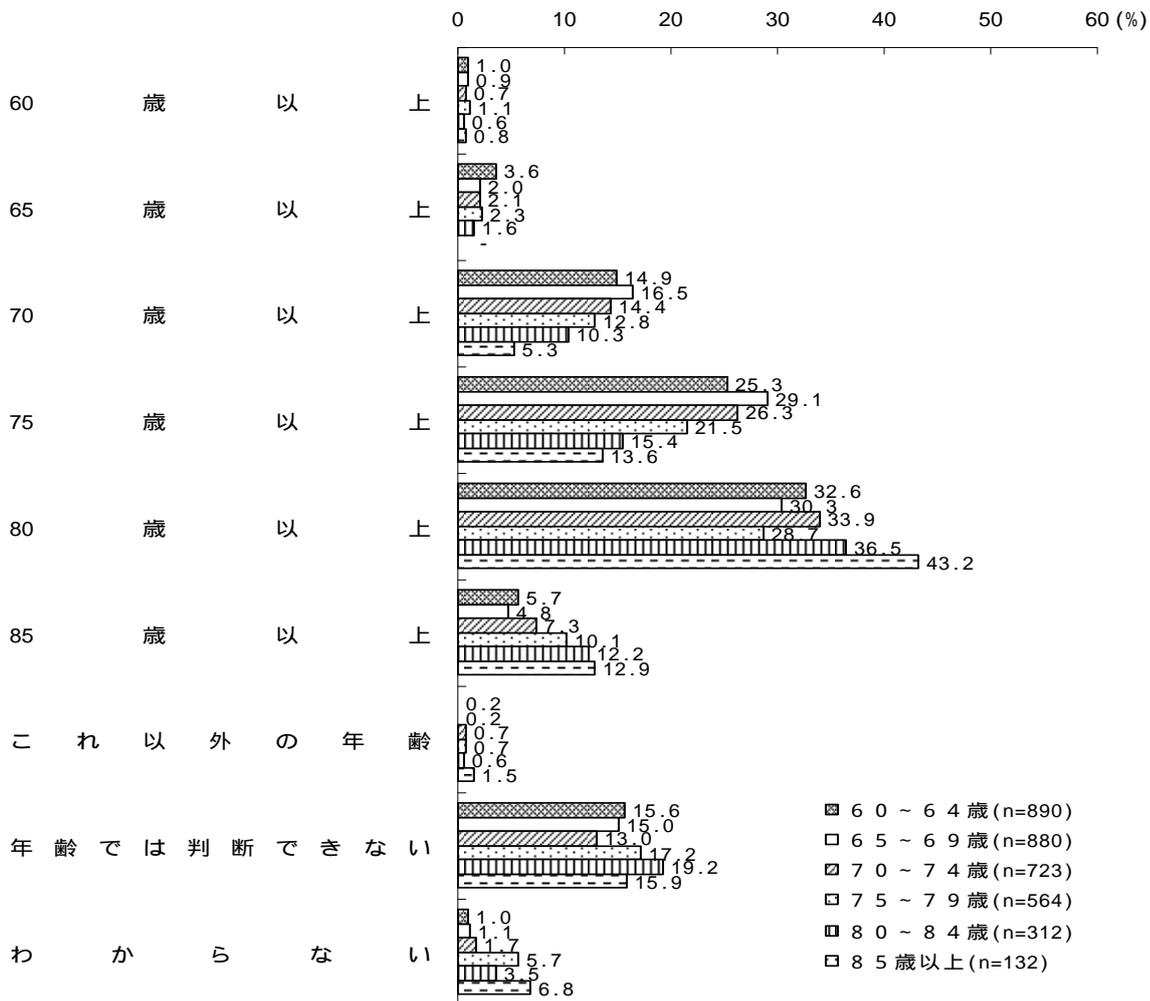
Q41 「あなたは、一般的に高齢者とは何歳以上だと思いますか。」



Q 4 2 「あなたは、一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思いますか。」



<年齢別>



・「日々の暮らしに関し社会として重点を置くべきもの」について、「老後を安心して生活できるような収入の保障」と回答した人の割合が55.3%と最も多く、過去の調査と比較しても増加傾向。

Q43 「あなたは、本格的な高齢社会の到来に備え、日々の暮らしに関し、社会としてどのような点に重点を置くべきだとお考えですか。この中から、主なものを3つまであげてください。」(3つまでの複数回答)

